

## ライフケアガーデン湘南 特定入居

症 例 概 要 利用者：80代 男性 要介護1

利用期間：令和3年1月末～現在

主 疾 患：出血性十二指腸潰瘍、低体温症、認知症、アルコール性肝硬変、S状結腸癌術後、喉頭がんRCT後、胆石

声掛けやユマニチュードケア等を統一、その人らしい生活の支援をワンチームで実践することができた事で、オムツから布パンツに改善し笑顔を取り戻した症例

### 内 容

令和2年4月奥様が亡くなり、認知症が進行した状態でしたが独居で生活していた。11月自宅で倒れているのを知人が発見し、救急搬送、誤嚥性肺炎にて入院。自宅での生活は困難な為、R3年1月当施設へ入居となる。

入居時は帰宅願望が強く、エレベーター前から離れようとせず、ドアが開くのを待っていることが多くあった。トイレ誘導をするも拒否が見られ、「そっちじゃない。帰る。」と声掛けをするだけで怒るなど不穏症状があった。どうしたら安心して施設に馴染んで頂けるかを検討し、トイレ誘導を確立し、失禁状態を無くすことや、不穏症状の緩和を目的とし、声掛けやユマニチュードケアの統一をワンチームで実践することとした。

日中は定時トイレ誘導、リハビリパンツ+パットを着用。夜間はオムツ着用で定時交換。

入居4ヶ月後（5月）トイレ内で排尿ができ、失禁回数が減少。夜間帯もご自身で起きてトイレに行き失禁なく排尿が増える。そのことから夜間のオムツを外し、リハビリパンツとパットで様子観察とした。時折夜間は失禁や、更衣介助をすることもあったが日を追うごとに失禁が無くなり、10月リハビリパンツのみの対応となる。

入居11ヶ月（12月）には、失禁も無くなり布パンツへ変更する事ができご自身でトイレに行く事ができた。そのような自立支援ケアのお陰かスタッフとの信頼関係が生まれ、レクリエーションにも積極的に参加され笑顔が多く見られる様になりました。

ご本人は「まだまだ元気でいないとな」と笑顔で話されるようになり、エレベーター前にいることや、帰宅願望は1度も聞かれなくなりました。

排泄介助がなくなり自立することができたのは、普段より身体状況や排泄パターン等を密に共有し、スタッフの声掛けやコミュニケーションを図ることで、その人らしい生活の支援ができ、意欲や不安をとり視

くことができたからではないかと思っています。

これからもワンチームとなり、愛情持って親身な対応を行うことで豊かな心を養いながら、笑顔に繋がるケアやADL向上に努めていきたいと思えます。